

耕作放棄地が豊かな畑に変身。ギャラリー稲童農園出現か？

「ギャラリー稲童」の近くに、ギャラリーメンバーの一人、Mさんの保有している田圃の跡地があります。500坪をゆうに超す元田圃にセイタカアワダチソウや野苺が、我が物顔にそれは見事に茂っていました。Mさんは北九州にお住まいの経営者でしたから、とても耕作までは手が回らず、典型的な耕作放棄地になっていたのです。それでも時々、刈払機で手入れをしていたようですが、何しろ野草の生命はとんでもなく強い。刈っては茂り、刈っては茂る状態が続きMさんもほとんど手を焼いていたのです。

私も何とか協力したいとは考えていましたが、本体の草刈りもままならない状況なので、黙って見守るしかありませんでした。そんなある日、ギャラリーの庭に中古の小さなトラクターが出現しました。トラクターと言うよりはむしろ人が乗れる耕耘機と言った方がぴったりの代物。なんと、ギャラリーメンバーのUさんが格



安で手に入れたそうです。M, Uコンビが協力して、このトラクターで耕作放棄地を蘇らせる計画をたてたらしいのです。どうなることやらと眺めていましたら、2人が協力して刈払機を持って畑に入り、背丈ほどに伸びた雑草に取り組み始めました。これまではMさん一人の作業だったのが、今回は戦力が倍増。みるみるうちに明るい空間が出現したのです。



刈り払った雑草を燃やし、トラクターで耕し始める状態まで一気に進んだのですが、作業はそこで中断。はびこった雑草や灌木の根が地中に張り巡らされており、小さなトラクターでは跳ね返されてしまうのだとか。そこで、ユンボのお出ましです。ギャラリーの石垣作りに活躍したユンボが、今度は耕作地作りのために根っこと格闘し始めました。流石にユンボと言いたいところですが、こちら中古品の悲しさ、突然エンジンが止まらなくなるトラブルが出現。先行きが危ぶまれましたが、だましまし機械を操作して何とか荒おこしまで出来ました。そこにトラクターで地ならしを行い、荒れ地が見事な耕作地に生まれ変わったのです。畝を作ってジャガイモが植えられました。春には収穫できる予定だとか。大根と白菜と葱があれば鍋が出来ると喜んでいる仲間もいます。



こんな状況を眺めていて、ふと思いついたことがあります。ドイツでおこなわれているクライン・ガルテンの考え方は、クライン・ガルテンは直訳しますと「小さな庭」になるのだそうで

す。都会に住む人たちが週末に畑に出て汗を流し、収穫の喜びを味わう、日本流に言うと宿泊施設付き市民農園です。茨城県の笠間郊外にクライン・ガルテンの日本版があり、そこに行ったことがあります。一区画がおよそ300㎡、そこに30㎡の簡易宿泊施設と100㎡の菜園がついています。総戸数は50戸。簡易宿泊施設といっても、小さな別荘言った方が似合う洒落たログハウスで、キッチン、バス、トイレはもちろんテラスも付いています。宿泊するスペースとしてのロフトもあります。中央に農機具倉庫があり耕耘機や草刈機などの農機具が備え付けられ、自由に使うことが出来ます。水飲み場や寛ぎスペースも付いていて、休息したりガルテナー同士の交流や情報交換の場になっています。



初心者のための農業講習会も定期的で開催され専門家による指導が受けられます。ここでは化学肥料や農薬を出来るだけ使わない有機農業を目指しています。一区画の年間使用料は40万円です。



また、1区画30㎡ほどの日帰りの家庭菜園もあり、休憩所を兼ねた農機具収納庫を無料で使えます。この場合の使用料は年間1万円。100キロ離れた東京から大勢の人が週末に笠間まで足を運び、自然に親しみながら、農作業を楽しむ、そんな時代になったと感じました。

このクライン・ガルテンの事業主体は笠間市です。笠間市は東京から100キロ離れた陶芸と農業の町です。笠間には多くの陶芸家が住み、数多くの陶芸ギャラリーや有名な日動美術館もあります。一方で農業は御多分にもれず、高齢化と過疎化が進み耕作放棄も始まっています。そこで、笠間市は農業と陶芸・美術とのハーモニーを目指してクライン・ガルテンを始めたのです。

MさんとUさんの働きを見ていると、ここ稲童で「美術と農芸のハーモニー」の場、ギャラリー―稲童版クラインガルテンが出来るかもしれないと感じました。

何しろ土地だけはたっぷりあります。農機具はトラクターやコンボまで揃っています。農機具収納設備も完備、自家焙煎コーヒー付きの休憩所もあります。農業指導者もお願いすればいてくれるようなので、簡易宿泊施設まで出来るかどうかはともかく、一区画30坪程度の日帰り農園ならできそうです。ギャラリー稲童協会の皆様にこの農園を開放して、休みの日には農業に親しみ、自分で作物を作る楽しみを味わっていただくことが出来れば楽しいな、と夢のようなことを考えています。その前に、M&Uコンビの作る作物の出来が心配です。何しろ何年も放置してきた農地ですから---

新田原駅からギャラリー稲童に来る際に田んぼの中の道を通ります。その田んぼの一番山よりに開墾した直後の畑があります。それがM&U両氏の汗の結晶です。ぜひ一度ご覧ください。